



# 千里ニュータウン研究・情報センター (ディスカバー千里)

「ディスカバー (Discover) 」とは「発見する」の意味  
ディスカバー千里は千里の魅力・歴史を発見するために活動しています

## ■設立の趣旨

「千里ニュータウン研究・情報センター (通称：ディスカバー千里) 」は、「千里グッズの会」の活動を続けてきたメンバーが中心となり立ち上げました。

千里グッズの会は、2002年、新千里東町のコミュニティ・カフェ「ひがしまち街角広場」に集まった地域住民、建築・都市計画・まちづくりの専門家、大阪大学の研究者・学生が立ち上げたグループです。始まりは「魅力ある街には魅力ある絵葉書がある」という発想に基づく千里ニュータウンの絵はがき作りでしたが、活動を行う中で次第に、

- 千里の暮らしの歴史が記録・共有されておらず、近過去について記憶喪失になりつつある
- 現在、急速に再開発が進んでいるが、千里全体としてどのような街にしていくのかという視点から再開発を位置づける主体がなく、再開発の経験が次に活かされていないこと、また、再開発に住民が意見表明・参加するための仕組みがない
- 緑豊かな住宅地である反面、仕事・起業の場、住民同士が気軽に集まれる場が十分ではない
- 成熟社会に対応するために、千里をどう再構築していくのかについてのビジョンが描けてない

という問題意識が膨らみ、千里の風景や記録、記憶の収集、調査研究成果の公開、街の魅力や情報を表現・共有するための新たなメディアのデザインなどへと活動領域を広げてきました。まちびらきから半世紀が経過した千里において、研究者と住民とが協働して、継続的に以上の課題に取り組んでいく必要があると考えセンターの活動をスタートさせました。

名称	千里ニュータウン研究・情報センター (通称：ディスカバー千里)
設立年	2012年9月15日
代表	太田博一・鈴木毅 (共同代表)
活動拠点	〒560-0083 大阪府豊中市新千里西町 3-2-3 笹部書店内
ウェブサイト	<a href="https://discover-senri.com">https://discover-senri.com</a>
沿革	<input type="checkbox"/> 2002年7月26日：「千里グッズの会」(センターの前身)が新千里東町の「ひがしまち街角広場」で第1回目の会合を開く。 <input type="checkbox"/> 2011年4月1日～2015年3月31日：「千里グッズの会」と豊中市の協働事業「千里ニュータウンの地域情報の「蓄積・編集・発信」システムの開発事業」を実施。 <input type="checkbox"/> 2012年7月25日：「千里グッズの会+大阪大学建築・都市計画論領域」による大きな本プロジェクトが大阪府の「おおさかカンヴァス2012」の作品に採択。 <input type="checkbox"/> 2015年3月：豊中市の協働事業「千里ニュータウンの地域情報の「蓄積・編集・発信」システムの開発事業」が終了。以降、千里ニュータウン研究・情報センターが活動を継承。 <input type="checkbox"/> 2022年7月：「ひがしまち街角広場」運営終了に伴い、活動拠点を新千里西町の笹部書店に移転。
受賞歴	<input type="checkbox"/> 2014年11月29日、「千里グッズの会」が2014都市住宅学会・業績賞を受賞